

【求める15歳の姿】  
受け入れ合い  
支え合い  
高め合う生徒  
～互いの考えや意見を尊重  
した発言・意見を通して～

# 鷺 中



TEL86-7950 fax86-7961

発行責任者：校長 鈴木 恭 朗

## 登校時、弾道ミサイル発射等に伴うJアラートが発令した場合の対応について

10月4日、午前7時22分、北朝鮮が発射した弾道ミサイルが日本上空を通過し、7時44分、太平洋に落下し、避難勧告が解除されました。この時間帯、すでに自宅を出た生徒もいれば、まだ自宅にいる生徒もいました。今後も似たような状況が起きることが想定されるため以下のとおりの対応にいたします。

### 【すでに登校を始めている生徒がいる時間帯】（今回のようなケース）

Jアラートが発令



まだ自宅にいる



自宅待機



情報収集



落下情報が発信される



登校を開始（遅刻扱いにはしない）

すでに自宅を出た



Jアラートが発令



- ①自宅に戻る（落下情報が入るまで自宅待機）
- ②SOSの家やコンビニ、頑丈な建物などに避難する
- ③鷺別中学校に向かう
- ④物陰に隠れる・頭部を抱え地面に伏せる

- (1) お子さんの恐怖感が解消されず、登校が難しい場合、ご家庭の判断に委ねます。
- (2) 自宅待機が長時間続くような場合、その後の行動について連絡メールを配信します。
- (3)すでに学校に到着した生徒は、教職員の指示に従い、校内で安全を確保します。

### 【すべての生徒がまだ自宅にいることが予想される時間帯】

Jアラートが発令



情報収集し、自宅待機、通常登校、登校時刻繰り下げなどの連絡をメール配信いたします。

## 全校道徳 命の授業10/4 車社会におけるドライバーのモラルと責任 北海道交通事故被害者の会 眞島 勝彦さんが家族の悲しみを語る

小学生の頃から警察官になることを志してきた大学4年生の息子さんが、北海道警察の2次試験日の朝、自転車で横断歩道を渡っている最中、赤信号を無視して直進してきた大型車に激突され命を落とすという痛ましい事故のことを話してくださいました。

加害者の過去における交通違反歴の多さをのちに聞いた眞島さんが愕然としたそうです。「たった一人の交通規範意識の低さが、残された家族、仲間、先生方など多くの人に大きな悲しみと苦しみを残します。時間は経過しても決して心の傷が癒えることはありません。ここにいるほとんどの人は、将来、自動車を運転する側になると思うので、加害者にも被害者にもならないように願っています」という言葉が印象的でした。

生徒からは、「交通事故へのイメージが変わりました」、「息子さんの夢が叶わずに自分も悲しい気持ちになりました」など、命の大切さとはかなさ、規範意識の大切さを再認識する感想文を多く目にしました。



## さん（室清水2年）が本校でインターンシップ10/4-6

本校卒業生で現室蘭清水丘高等学校2年生の■■■■彩さんが3日間、本校でインターンシップを行いました。将来は中学の数学教師になることも進路選択の一つにしており、「個人ノートのやりとりや教材づくり、突発的な教育相談など、今までに気付かなかったところにも先生方が気を配ったり、時間をかけたりしていて驚きました。でも、やりがいのある仕事だと改めて気づきました。」と3日間の感想を語ってくれました。バドミントン部の練習にも参加したり、休み時間は生徒と談笑したりするなど、エネルギーに過ごしていました。



## 鷺別、若草地区の見守りボランティア 部活動終了後の見守り10/5-6

10月に入って日没時刻が早まり、部活動終了後、辺りはすっかり暗くなっています。そこで、「自分の身の安全は自分で守る」という意識を高めるため、地域の見守りボランティアの方々に安全に下校するためのポイントの講話をしていただき、実際に通学路を歩きながら危険ポイントなどを確認して下校しました。5日はバドミントン部員の松前さんが、6日は野球部員の宮上くんが生徒を代表して感謝の言葉を述べました。

